

手作り弁当完成記

影の主役大活躍



お重が並び終り、料理を仕切るホイールなどを入れる
[左から] 夏原春美さん、酒井悦子さん、柿本富美恵さん(女性会)



中村会長の若奥様の手作り「ういろう」のつぎは、「出し巻」
[左から] 森芳子さん(民生児童委員会)、酒井さん、柿本さん



“かにかまぼこ”も添え、着々と形が揃う
[左から] 中村梅子さん、川上和子さん、山岸香子さん(女性会)



合え物の緑の色を添えて、完成が近い
[左から] 夏原さん、酒井さん、森さん、多田啓子さん(民生児童委員会)



おみやげの品と、お弁当を配膳するテーブルの準備を、自らす社協会長
[左から] 大八木ともみさん(民生児童委員会)、松本祥男さん(社協会長)

ひとり暮らし高齢者食事会開かれる

社会福祉協議会

女性会

民生児童委員会



▲もてなしのあいさつをする中村女性会長

元修徳小学校跡仮設会議室にひとり暮らしの高齢者をお迎えする主催者側は、社会福祉協議会松本祥男会長、女性会中村順恵会長、民生児童委員会堀順象総務、そして、自治連合会篠原貴会長、高齢者の健康生活の先生として来賓の下京保健所保健婦藤田美幸先生であった。主催者側のあいさつと、藤田先生の別掲「寄稿」のような、高齢者の方々がたのお話のあと、女性会の皆さんの心のこもった手作りの料理が配膳された。参加した四十三名の高齢者の方がたは食事と楽しい語り合いに

心こもる料理と話す喜び

京都の紅葉が美しく彩りはじめた平成十一年十一月十一日午前十一時、いい年、いい月、いい日、いい時と、慶びの集いを演出して、恒例の食事会は開会した。ひとり暮らしの高齢者の方がたは、地域の心のふれあい、語り合いを、なによりも大切に思っておられると感じた。

元修徳小学校跡仮設会議室にひとり暮らしの高齢者をお迎えする主催者側は、社会福祉協議会松本祥男会長、女性会中村順恵会長、民生児童委員会堀順象総務、そして、自治連合会篠原貴会長、高齢者の健康生活の先生として来賓の下京保健所保健婦藤田美幸先生であった。主催者側のあいさつと、藤田先生の別掲「寄稿」のような、高齢者の方々がたのお話のあと、女性会の皆さんの心のこもった手作りの料理が配膳された。参加した四十三名の高齢者の方がたは食事と楽しい語り合いに

老人福祉員 地道に高齢者のお宅を訪問

現在、下京区二十三学区全体で、ひとり暮らしの方は約二千五百人おられる。修徳学区では、約六十人が生活されている。今、老人福祉員として、

高橋政江さん(玉屋)と大八木ともみさん(数下)のお二人に、それぞれの担当町内のひとり暮らしの高齢者の方がたを訪問していただいている。一部に、歩行困難や病気療養中で、このような催しに出席できない方もおられ、私たちが心痛めているところである。

ふわふわ大好評！
とん丸洗い乾燥
ふとん丸洗い乾燥
老人福祉員のお世話で大好評の、ひとり暮らしの高齢者の方がたへの、「ふ



松茸ご飯を入れて、ついに完成した。プリのつけ焼きは、仕出しの松桑さん(中村哲也さん(小田原))のご協力を得て、本格的な京料理のお弁当ができた。

『ひとり暮らしの高齢者の食事会』に出席して

下京保健所 保健婦 藤田 美幸



私が修徳学区を担当し食事会にお誘いいただき、今年で四年目になります。毎年拝見するお顔もあり、お元気な皆様方と接することが楽しみです。また女性会の方がたが作ってくださるお食事も、旬のもの

私が修徳学区を担当し食事会にお誘いいただき、今年で四年目になります。毎年拝見するお顔もあり、お元気な皆様方と接することが楽しみです。また女性会の方がたが作ってくださるお食事も、旬のものを使い、美味しく料理の原

高齢者の方がたとの対話

何でも食べる／よく歩く／趣味をもつ

と不眠になりがちですが昼間を活動的に過ごし規則的な生活を送ること。③散歩程度の運動を毎日行なうこと。「老化は足から」と言います。運動を生活の中に取り入れることで、規則正しい生活リズムをつくりましょう。

共同募金会修徳分会
分会長 櫻田佳正

赤い羽根共同募金
皆様のご寄付に謝意を表す
平成十一年度の赤い羽根共同募金運動は、学区の皆様のご寄付(一口、五百円)をまとめ、十二月八日に、二十六万九千円を京都府共同募金会下京支会会長、伊藤正夫氏に託して終わりました。

夢の半径、広がるね。
心には生えた夢が、今が輝く実感へ。私たちが信じて、皆様方との楽しいおつきあいを通じて、より豊かな暮らしのお手伝いをしています。
CHUSHIN 五条支店
五條通西側院角 35112951

火災発生想定で訓練 ハイシャトレ東洞院松原104号室

消防分団日誌

日、午前九時三十分から十一時まで、大江町ハイシャトレ東洞院松原104号室に火災が発生したという想定で、消防訓練を実施した。大江町の住民はじめ五十一名が参加した。訓練は、模擬指令電話機を使った「住民による一九番通報訓練」「修徳消防分団による初期消火訓練」「下京消防署消防隊による「救出消火訓練」同救急隊による「搬送訓練」と続き、最後に、下



京消防署の喜山哲次消防士長の指導による「住民による消火器取り扱い訓練」で終了した。

「火の用心」を呼びかける防火回りの声が、今日も学区民の防火意識を覚ます。修徳消防分団の皆さんは、班別に構成され一班は学区東部、二班は西部などと分かれて夜回りをする。火災は水山の一角として現われる。てんぷらの現場を無意識に離れる慣れ、燃焼器具

消防分団の夜回り 火事ゼロの原動力

に過熱はないと過信して、就寝中も燃やしたままなどの非常識な慣れなど、水山の隠れた部分の継続が火災を現実化させる。放火防止も、可燃物を置く、夜の町内が暗いなどのすきを見せないことが必要である。今夜も消防分団の皆さんの夜回りの声が響く。

台湾大地震 民衆に学ぶ

2月24日 ■ 修徳自主防災会研修会 ■ 仮会議室

初めての世界最大の救援隊

今回の修徳自主防災会の研修は、平成十一年九月二十一日の台湾大地震に『国際緊急援助隊・救助チーム』の第二中隊長として、台湾で救助活動をされた京都市消防局消防救助係長濱田康寛氏に、台湾大地震直後の状況をお話しいただいた。各町内会の防災部長はじめ八十五名が出席し関心の高さを示した。台湾の市民組織の強さの基礎にある家族共同体に、日本の核家族を逆戻りさせるのは不可能で、地域コミュニティの強化は別の方法を模索しなければならないだろう。

今回の台湾地震に際して、最終的には、今回の『国際緊急援助隊・救助チーム』は全国の十一消防機関の国際消防救助隊員四十六名のほか、警察、海上保安庁などを含め総勢百十名となり、台湾に入国した各国の救助チームのなかでも、最大規模のものである。

周りの建物は無傷で突然横倒しのビルが二十一日午前一時三十分、本格的な救助活動を開始した。市で開

十分に、埔里鎮（プリー）の現場に到着する。担当したビルは、一階が店舗で二階から五階が共同住宅で、一階、二階が座屈している。削岩機や画像探査機などを使用し、懸命な探索活動をする。しかし、座屈部分には隙間がないほど崩れていて発見救出には至らない。しかも、余震のたびに建物の外へ避難する。

翌日九月二十四日、台中県の大里（ターリー）に十時十五分到着する。現場は二棟の十一階建てのマンションが二階部分で折れて、隣の建物に倒れかかっている。二十一名の行方不明者の探索をする。この現場は、高所の懸垂進入など「山岳救助技術」を駆使した活動で、斜めになっている空間に、天地がわからな



修徳自主防災会研修会
ご来賓の紹介
（講師）
京都市消防局消防救助係長 濱田 康寛様
消防司令 濱田 康寛様
（防災指導）
下京消防署 警防課第一担当課長 山本 良弘様
消防司令 山本 良弘様
消防司令 秋本 直様
同 係員 秋本 直様
消防士長 喜山 哲次様

修徳消防分団班別構成（連絡網）

分団長 谷山 新一		
1班	2班	3班
副分団長 浅野 三朗	副分団長 櫻田 佳正	副分団長 森田 吉夫
班長 中村 正和	部長 新庄 明美	部長 福井 謙三
班長 内藤 栄紀	班長 平岩 真治	団員 森 修司
部長 久城 正	団員 中村 哲也	団員 山本 進
	団員 山崎 博行	団員 山本 照代
		団員 山本 玉虫

なる。しかし、日本隊の救助ニーズはないという。山岳救助技術を駆使 斜めの空間に錯覚

「自分の公園」意識 保てる話し合いを

二分、台湾中央部を震源とするマグニチュード六・八の最大余震が発生して、帰国準備中の日本隊に台湾副総統の要望で帰国を

「花壇から考えてみる。『近隣住民層』と『子供の両親層』二十歳未満層は『不要』回答が多く、『高齢者層』『四十〜六十九歳層』『二十〜三十九歳層』『小学生層』は『必要』回答が過半数を超える。

「自分の公園」意識 保てる話し合いを

見合わせ、台北で唯一倒壊した松山ホテルに到着する。台北消防の活動はすばらしく、救助活動に熟達

環境情報を敏感にとりいれて

「自分の公園」意識 保てる話し合いを

真の賠償の判例、また主要都市の調整機関で悪臭は人権侵害と認定『朝日』を漂わせ、富栄養化した土壌から害虫を発生させる。害虫の媒介による感染症の突然の発症（ニューヨークの例）二月二十七日NHKスペシャル未知なるウイルスの襲撃も、よそごとではなくなってきた。

「自分の公園」意識 保てる話し合いを

「自分の公園」意識 保てる話し合いを

学年も含め人気がある。（小公園）
●フェンスの設置は「四十〜六十九歳層」「二十歳未満」以外は、すべて設置派が多数を占めた。
（一）公園はオープンなもので、フェンスの設置は困る、公園内にはトイレもゴミ箱もあるものだとお叱りの回答もあつた。
（二）公園が泣いているという見出し（朝日新聞九九、十、八付）で、夜中のサッカー、花火などの騒音被害で、フェンスを設置し、夜間の出入りを禁止した公園も出てきた。（貝塚市二色の浜）
（三）浮浪者の公園占拠、青少年のシンナー遊びなども現実化している。
●トイレ、ゴミ箱などは（一）維持管理の不備から、トイレの4K（きたない、くさい、くらくら、こわい）と嫌われている。
（二）ゴミがたまつたまま、風、ネコ、カラスなどによって散らかされ公園を汚す。（小公園）
●広場部分は「区画された芝生」「芝生」が圧倒的で、テニスコートの設置はどの層でも少数派ではあるが、地域の災害避難場所、ふれあいの場の関係も考慮して、広場のあり方をよく話し合つてほしい。（まちづくり広報室）

個性的で魅力のある空間を

悪徳商法にご用心

新年会で消費者研修

一月二十日、修和会の新年会で市民生活センターの大前由美子講師から「悪徳商法にご用心」とお話がありました。そのうちの二、三をお役にたてばと、ここに紹介します。

修和会

○前やまわりに空き地のあるお宅の場合

トイレを貸してほしいと一人が頼みこんでくる。すませてからも気軽に世間話をする。そのうち仲間が空いた場所に荷物を置かせてほしいと来る。あつという間にガレージセールのような格好になつてしまふ。粗悪品を買わされたご近所からブライニングを聞く。

○テレビ等のテレホンショッピングの場合

電話番号がよく確認して間違いなくかけないと番号のよく似た電話で、別の業者が待ち構えている。そして類似で割高の商品を買わされる。

○クリーニングオフは効かない。

商品を買わされる。こうして読めば、なんだそんなもの大丈夫、となりますが彼等は「口から生まれた口太郎」巧みな話術できますから、くれぐれもご用心、とお話してました。

亀山稲荷が報道される

『SHOTおもしろ探見』欄

11年11月3日(祝) 午前11時
町内亀山稲荷社 お火焚祭

天候に恵まれ例年にならぬ暖かいお火焚日でした。終了後、町内安全を祝してビールで乾杯。ミニ懇親会に移りました。

中野之町



商売繁盛、家内安全を祈願しました。四、五日からのきびしい寒さも一服で、穏やかな日差しを受け、「どんどこ」に近よる人も少ないようでした。

同日夕刻より
伊勢長(新町錦上ル)において、新世紀第一回目の総会(午後5時)・親睦会(午後6時)が行なわれ、親睦会は町内全体で寿ぐため各家庭・会社より2名出席のもと、盛大に繰り広げられました。(中野之町 西村佳子)



町尻の意味

富永町 上出隆一

平城京、長岡京の南北通は、東三坊大路など朱雀大路以外は数字を使つた名前になつてゐる。ところが平安京では、鳥丸小路、恵止利小路など、意味のわからない名前がついていて、ヒマがあらば説明してみたいと、京都人はみんな思つてゐる。新町通は平安時代は町尻小路といつた。町尻小

路は平安京の真ん中ではないが、はしつこでもない。なぜ尻なのだろう。北海道の利尻島は、「高い山の島」の意味だから尻とは山のことかもしれぬ。染屋の多い西洞院から見ると新町は坂の上になつてゐる。それで『町の山』『町尻』なのかも知れない。

新町通は町の祭の『山』

町尻がたくさん建つ通り

もう一つ別の考えもある。平安京以前から祀られてゐる『サへの神』(道祖神)が新町松原に今もある。サへとは、『里々』村境の『意味』と『境』の意味と『北は高句麗渡来の八坂氏、南側は新羅渡来の秦氏が開発した。その境目に争いのないようにサへの神がまつられたのだから。』

『町尻小路とは町尻の神の通り』という考えの外に、また一つ案が浮んだ。テレビ、『街道をゆく』の『河内みち』で東大阪市若江のダンジリの話があつた。夜中に宮入するダンジリの屋根で活躍する男を見て『シッコとりますなあ』と地元の人言う。シッコはシリコル、『山を守る』、ダンジリはタンシリ。『こちらの山』と読める。京都で言えば、祇園祭の山が『こちらの山』つまり先祖の霊が町へ帰ってくる山。



八坂の山(上) 五条大路 上杉本路中落外園



祇園祭は霊が町へ帰ってくる山

写真は『市民生活のてびき』表紙より

大文字は霊が天へ帰っていく山

枯木からの新芽

春 実 感



立春も過ぎ、日毎に春の気配を感じるように思う。今日この頃です。我が家の鉢植えも、室内に入れたためもあり白梅、紅梅、放春花(ボケ、水仙など)すでに咲きつて、薫梅、沈丁花、椿などが蕾をふくらませています。また、昨日まで枯木状態であった雪柳、こでまり、ゆすら梅、E.T.Cが次々に可愛い新芽をふいてゐるの

を発見すると、何かしらうれしくなる気がします。我が家で唯一の当る場所といえは屋根の上なのですが、ここに物干の延長の形で、板で「すのこ」を張り、棚を造つて、早月を中心に数十鉢を並べています。良く晴れた日の日差しが透りていくように、季節の変化を実感し、良く日光に当てる物と、それ程でもない物と、位置を置きかえたり、また、水やりも週一回から二日に一回と、将に春近きを如実に感じております。

毎朝夕、犬とともに学区内を歩いていますが、けつこう家の前や塀の上などに草花や鉢物を並べておられるお宅があります。年々ビルの建ち、町家の消えていく中で、何となくホッとする気がします。花と緑が身近にあることで、どれほど潤いが生まれるか、今更のように感じている次第です。

花と緑と町家に潤い感じて



中野之町 佐倉 道彦

川柳

年巡り 古稀と八十路の半迎え
若きにあらねど 老いは見せまじ

豆撒きや 鬼も遣伝子 組み替える
春近し 影も元氣に なつてくる
やわらかい 雨へふくらむ 蕾たち
人生を お伽噺に するさくら
蝶々の 浮気を赦す 花の蕊

井財天町 都倉 昭蔵

短歌

玉屋町 安川 一丸

編集後記

■地域に魅力ある空間を創りたい。■現実には「正」と「負」の面があり「それだけで完全」というものはない。■花と緑も肥料や殺虫剤の、悪臭と環境ホルモンの「負」の面の歯止めがきくバランス感覚が望まれる。■個性の時代である。一人ひとりが違う意見をもつ。話し合つて、地域の個性に纏めあげる習慣が『自分たちのまち』意識に凝縮されていく。

(小西)

人事往来

誕生	おめでとう	お悔み 申します
十月七日	中村 一磨(小田原)	六月十三日 丸布(株) 吉水俊成(吉水俊成)
十月十六日	上田 有志(富永)	平成十二年一月二十九日 片岡 正治(材木)
十月二十九日	坂下 津(小田原)	
十一月二日	熊谷ふじ子(小田原)	
十一月五日	梅津 房栄(月見)	
十一月十九日	小林 春枝(大江)	
十二月十一日	上田 秀夫(小田原)	
十二月二十二日	菊地 ヒサ(富永)	
平成十二年一月九日	池原好三郎(小田原)	
平成十二年一月二十九日	山崎 祐助(徳万)	
平成十二年二月十二日	藤本 實(大江)	
六月三十日	宮本(株) 富永	
十二月九日	増田 満子(希屋)	
四月十八日	大谷 博(大江)	
八月一日	篠田直明税理士事務所(富永)	
十二月一日	脇坂 一之(中野之)	
十二月吉日	大嶋 義実(玉屋)	
平成十二年一月二十四日	松本 賢明(材木)	
お元気で		
転出		